

看做スモ亦可ナラン然リ而シテ歐洲ニ於テ格魯兒化合物ヲ
發見セシハ實ニ一千七百七十四年(我カ安永二年)ニシテ
今ヲ去ル僅カニ百十七年前ナレトモ我カ輕粉ノ發明ハ既ニ
四百有余年前ニアリトモ輕粉ヲ以テ我國化學的藥品ノ
元始トスルモ敢テ不可ナカラシ平

◎鑑定書 其二(承前)

會員 森 理 記

第三 屍体内部所見

第十四條 胸腔 頤下ノ中央ヨリ刀ヲ下シ式ニ依リテ之

ヲ切割スルニ皮下脂肪組織ハ其厚サ半仙迷ニシテ汚穢

帶赤黃色ヲ呈ス而シテ第六條ニ記シタル囊狀物部ハ皮

下結締織中ニ暗紅色ノ液ヲ含有セリ

第十五條 胸腔ヲ開剖スルニ只タ(イ)巨大ナル心臟ト(ロ)

其上方ニ淡暗赤色ニシテ扁平鷲卵大ナル胸腺ヲ見ルノ

ミニシテ(ハ)肺臟ヲ認ムルヲ能ハズ而シテ(ニ)腔内ニハ

血樣色漿液性滲出物大約二十瓦謨許瀦溜スルモ内外兩

板ノ肋膜ニハ異狀ナシ

第十六條 心囊内ニハ多量ノ血色ヲ帶タル漿液性滲出物

アリ囊ノ裡面ハ滑澤ニシテ異狀ナシ心臟ハ大ニシテ該

兒手拳ノ兩個ヲ併セタルニ均ク之ヲ切割スルニ左右兩

房及ヒ室内ニ少許ノ凝血ヲ見ル

第十七條 肺臟ハ脊柱前面ノ兩側ニ占居シ淡暗紅色ニシ

其邊縁ハ尖銳ヲ呈ス之ニ觸ルニ莠蕪狀ノ感アリ腔外

ニ取出ノ桶水ニ投スルニ直ニ沈降シ其各葉ヲ切離シ摩

試ムルモ亦タ能ク沈降ス又タ刀ヲ以テ其切割面ヲ撫

スルニ血液血管孔ヨリ流出スルヲ見テ小氣泡ヲ見ズ又

切離セル小片ヲ水中ニ壓試スルニ毫モ氣泡ヲ放タズ

第十八條 腹腔 胃及ヒ腸ハ扁平狀態ヲ呈ス噴門及ヒ十

二指腸ノ下部ヲ結紮シ之レヲ水中ニ投ズルニ沈降ス切

割スルニ胃及ヒ十二指腸内ニハ少許ノ粘液アリ大腸内

ニハ僅微ノ胎兒便ヲ見ル

第十九條 肝臟ハ比較的大ニ脾腎腺及ヒ膀胱等異狀ナシ

第二十條 第九條ノ表皮剝脫部ヲ切割スルニ組織壞疽狀

ニ陥ルヲ殆ンド壹仙迷ノ深サニ達セリ

第廿一條 頭腔 囊狀ニ弛緩セル頭蓋ノ皮膚ヲ切割スル

ニ帶臭汚穢褐赤色ナル軟泥狀ノ腦髓流出セリ而ノ骨質

ニハ異狀ヲ見ズ

第廿二條 四肢 大腿骨下端ニハ化骨立ヲ見ズ跟骨部ニ

ハ左右共ニ粟粒大ノ化骨點アリ

茲ニ於テ各臟器ヲ故位ニ還納シ創孔ヲ縫理シ以テ検査ヲ

了ス干時午後三時

第四 參考人ノ陳述

第廿三條 事實參考ノ爲メ被告某女ニ對シ妊娠中及七分

娩時ノ狀況ヲ尋ヌルニ某女ハ本年四十五才ニシテ生來

強壯五子アリ皆ヲ健存ス近年ニ至リ月經不順ナルヲ以

テ今回ノ妊娠ニ就キテ其何月ヨリ經閉ヒシヤヲ確言シ

難シト雖モ少ク娩産ノ時日不足ナルガ思惟セリ而シテ妊

娠中別ニ異狀ナク分娩前二十日許ノ比躓倒ヒシモ敢テ

意ヲ住ムルニ至ラズ本年三月廿五日午前十時比娩出セ

リ出產平易ニシテ産后亦タ異狀ナカリシ其臍帶ヲ切離

セシハ屍體ニ之レヲ添ユルキハ母體ニ違和ヲ來スト云
ヘル口碑ニ由リ之レヲ切離シテ別ニ被包シ屍體ノ傍ニ
埋了セリト云フ

第五 說明

第一 第三條第五條イ(一)(二)第十條第十三條ノ末段第

十五條(ロ)及ヒ第二十二條ニ依レハ該兒發育不全ニシ

テ蓋シ受胎后大約三十二三週ヲ經過セルモノナラン

第二 第五條ニ於ケル諸部ノ壓迫第十二條ノ前段及ヒ第

十三條ノ損傷ハ死后ニ於ケル強劇ノ壓迫ニ因スルモノ

ト認メ何トナレバ生前此ノ如キ強度ノ壓力ヲ受グルル

ハ必ナラス多少ノ生活反應ヲ始殘スベケレバナリ

第三 第十五條(ハ)第十七條及ヒ第十八條ニ依リ該兒ハ

呼吸ヲ營爲セザリシモノト認ム

第四 第九條第二十條ハ生前潰瘍症ニ罹レルモノトス然

レモ致命ノ原因ニハ關係ナキモノナラン

第五 第十六條ニ記スルガ如ク心臟比較的ニ大ナリト雖

モ果シテ致命ノ原因ニ關係アリヤ否ヤ分明ナラズ

第六 第四條ノ前段第五條(イ)中前房水中血液樣物ノ浸

潤第六條第八條前段第十四條末段第十五條(ニ)第十六

條前段及ヒ第廿一條等ハ皆ナ腐敗ノ變化ニシテ此變化

ハ屢々母体内ニ於テ死亡セル胎兒ニ於テ見ル所ノモノ

ナリトス然レハ本検査ヲ行ヒシハ分娩時ヨリ十三日ヲ

經過セル后ニ在リ故ニ該變化ヲ以テ母体内ニ死亡セル

徵候ナリト斷言シ難シト雖ハ已上第三ニ陳ブルガ如ク

呼吸ヲ營爲セザル等彼此參照スルキハ該兒ハ蓋シ母体

内ニ於テ死亡シ而ノ娩出セルモノト認ム

第六 鑑定

以上説明セル理由ニ依リ

一 該兒ハ出産前即チ母体内ニ於テ或ル疾患ノ爲メニ

致命セルモノナリ然レハ其疾患ハ分明ナラズ

一 身体諸部ニ於ケル損傷ハ死后ニ來レルモノニシテ

毫モ致命ニ關係ナキモノトス

右及鑑定候也

◎鑑定書(檢案書) 其二

某郡某村大字某第拾六番地平民農某四十三年カ毆打創傷

事件ニ付キ明治二十二年六月十九日午前第一時三十分某

警察署ニ於テ某縣警部某立會ノ上檢案スル所次ノ如シ

第一 (イ)左上膊外側ノ中央部ニ於テ方二仙迷ノ皮下溢

血アリ淡紫赤色ヲ呈シ且ツ其部ノ表皮少ク剝離結痂ス

ルヲ見ル(ロ)同上膊ハ少ク腫起ヲ呈シ之レヲ右方健側

ニ比スルニ其中央部ニ於テ四仙迷ノ差アリ(健側二十

七仙迷患側三十一仙迷)(ニ)患肢ハ十分ニ之レヲ展伸ス

ルヲ能ハズ然レハ其原因ハ同肢肘關節裏面ニ存スル頑

癬甚シク糜亂セルニ依ルモノニシテ(イ)(ロ)ノ兩損傷ニ

相關セザルモノト認ム

第二 右肩胛骨下隅ト背椎トノ中央部ニ於テ方三仙迷ノ

皮下溢血アリ淡紫赤色ヲ呈シ其一部分ノ表皮剝離結痂

ス而シテ此損傷ヨリ下外方ヘカク大約手掌大ノ限界分明

ナラザル腫起ヲ認ム

右第一第二共ニ鈍体ニ衝突擦過セル歟若クハ鈍体ヲ以テ

打撲擦過セシニ因スルモノニシテ大約三日間ノ休業ヲ要